

お出かけください 文化施設巡り 17

このコーナーでは、豊岡市立の文化施設を巡り、紹介します。

東京大学初代総理(総長)の生家

加藤弘之生家



- 所在地 豊岡市出石町下谷10-1
- 開館時間 10:00～15:00
- 開館日 日曜日、祝日
〔年末年始(12月28日～1月4日)は休館〕
- 入館料 無料



▲教育委員会出石分室の片岡澄美がご案内します。

加藤弘之は、天保7年(1836年)出石藩士加藤正照^{まさてる}の長男^{ちやうなん}として出石町下谷に生まれました。藩校弘道館に入学、江戸に出て佐久間象山、大木仲益^{なかつしげ}らに入門し、西洋兵学や蘭学を学びました。

その後、加藤は、東京大学の前身である蕃書調所勤務をきっかけに、教育行政に関わることとなり、明治4年に文部省が発足すると明治新政府の文部大丞^{ぶんぶだいじやう}(現在の文部事務次官)に就任。加藤はそこでより高度な専門教育機関の重要性を説き、東京大学創設(明治10年)に大きく貢献しました。

そして、明治14年、制度改革により、法学、理学、文学、医学などの学部を持つ日本初の総合大学となった東京大学の初代総理として着任し、現在の大学制度の礎を築きました。

また、加藤は研究者としてドイツ学を究め、明治の日本に法律、政治、教育、学校制度など西洋の新しい思想を紹介しました。

生家であるこの家は、屋根、外観などは改修されていますが、当時の敷地と建物が残り、市指定文化財に指定しています。



▲加藤弘之胸像

玄関を入ると加藤の胸像が出迎えます。出石高校華道部が花を飾ってくれています。



▲加藤弘之の書

床の間に飾られている加藤の書。子孫の方から寄贈いただきました。



▲展示室

加藤弘之の年表や関係文書などを展示しています。



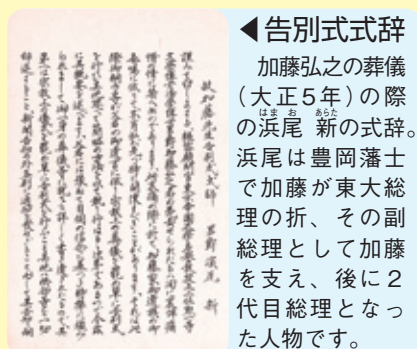
▲辞令

東京大学初代総理(総長)の職を受けた折の辞令。天皇御璽が押印されています。



▲加藤弘之自叙伝

雑誌社に明治の十二傑として選ばれ、その取材をもとに晩年執筆されたものです。



◀告別式式辞

加藤弘之の葬儀(大正5年)の際の浜尾 新の式辞。浜尾は豊岡藩士で加藤が東大総理の折、その副総理として加藤を支え、後に2代目総理となった人物です。

【表紙写真】 5月10日、北近畿タンゴ鉄道(KTR)但馬三江駅の愛称「コウノトリの郷」駅の命名記念イベントが同駅(日撫)で行われました。また、同日、環境に優しい列車観光と自転車とを組み合わせた「KTRサイクルトレイン」の完成お披露目も行われ、西舞鶴を出発した一番列車から11台の自転車と共に降り立った乗客らは、式典の後、県立コウノトリの郷公園や玄武洞などへ出発していきました。